

金融サービス業向けデータハブプラットフォーム

データドリブンによる変革の実現

現在、世界中の金融機関は、高まり続けるさまざまな圧力に直面しています。具体的には、業務運用を最適化し、リスクとコンプライアンスの管理を強化し、顧客エンゲージメントを向上させ、市場シェアを拡大するために旧来のビジネスを変革しなければなりません。株主、規制当局、顧客、競合他社からの圧力はあらゆる面で散見され、複数の国々で事業を展開することにより問題はさらに顕在化（複雑化）します。このような競争環境では、金融機関は従来の IT システムやプロセスを使いながら課題を克服し、エンタープライズデータ資産を有効に活用する必要があることを認識しています。顧客データ、支払い、金融リサーチ、取引のすべてにおいて、全社的な分析と業務をサポートするためグローバルなデータの全体像（360°ビュー）の作成が、今日ますます重要になってきています。大手の金融機関では、金融サービス向けの MarkLogic データハブプラットフォームソリューションを利用することで、エンタープライズデータ管理の最新アプローチを活用しています。データハブにより、データサイロの撤廃、エンタープライズデータの統合、情報資産の再利用などが可能になるほか、効率的なデータやコンテンツの利活用が促進され、より優れた洞察力が得られ、業務の向上につながります。

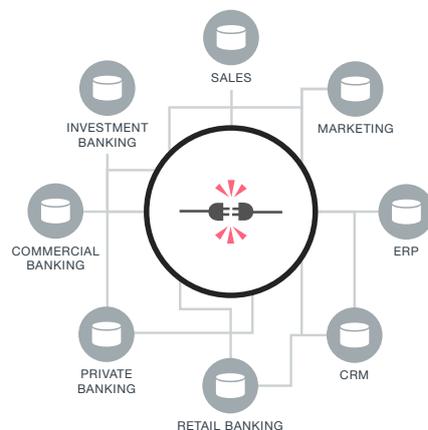
データサイロによって制限される業務遂行

金融サービス業では、分散された IT システム、レガシーアプリケーション、合併・買収により、大量のデータが分断されて格納されています。投資銀行では多くの場合、取引がアセットクラスによってサイロ化されていますが、リテールバンクでは、顧客データは合併・買収や組織構造によって複数の CRM システムにサイロ化されています。アセットならびにウェルスマネジメントでは、それら両方の要素が存在している可能性があります。さらに、これまで投資銀行ではコンプライアンスのために投資、リサーチ、リテール部門を分けていたように、意図的に作成されているサイロもあります。

しかし現在、金融規制当局は、金融機関に対して、多数の異なる業務部門のデータを統合するよう要求しています。例えば、顧客確認（KYC; Know Your Customer）などの規制によって、銀行では顧客の統合された全体像の把握が必要になっています。同様に EU では、MiFID II 体制により、資本市場における透明性の課題が顕在化しています。このような規制にとどまらずすべての金融機関は、既存のサービスに変革をもたらす新規参入企業と競争するためには、データ資産を有効活用して競争力を強化する必要があることを認識しています。

分断されているデータは、金融機関に多くの課題を生じさせています。具体的には、極めて短期間で規制要件に対応することや、コストと時間のかかる ETL データ統合プロセスによって迅速な革新を行うこと、さらには新たなタイプの新規参入者によって増幅された顧客の期待値に応えることの難しさなどがあります。こうした課題に対応するために、多くの金融機関はデータストレージ、ファイル管理、API の技術を順次導入していますが、データに関する根本的な課題が解決されていないため、往々にして新たなデータサイロが構築される結果となっており、ほとんどのケースで業績の向上と競争力の強化を果たせていません。

もしこういった状況が身近に感じられるのであれば、分断されたデータを新しい方法で統合する必要があります。



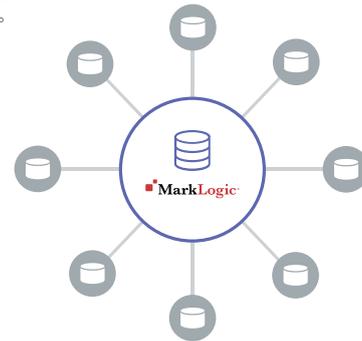
今日の金融サービス（銀行）におけるデータの分断

データ資産の360° ビューを提供するデータハブソリューション

MarkLogic データハブプラットフォームは、スピードと拡張性を可能とする NoSQL 上で実行されており、エンタープライズデータを統合およびキュレーションすることで、すぐにビジネスバリューを提供します。このデータハブは、データ、コンテンツ、メタデータすべてに関して「single source of truth（真実に関する唯一のソース）」を提供します。核となる情報に関する信頼できるソースからのレコードに基づいて、従来と将来のアプリケーションにサービスを提供できます。

「データハブ」のアプローチは、各ライフサイクルを通じて、重要なデータ資産の全体像（360°）を提供します。取引データの例でいえば、フロントオフィスの取引システムからミドルオフィスやバックオフィスといった取引後の業務まで、業務に活用可能な最新の取引状況をデータハブソリューションが提供します。データハブプラットフォームはエンタープライズデータのバックボーンとして、主要なビジネスエンティティの各段階にわたって重要な「システム・オブ・レコード（SoR）」をリンクさせます。これにより、リスク管理、コンプライアンス、運用チームが関わるトランザクションのライフサイクル全体において透明性の高いデータ像を提供します。

MarkLogic は新世代のデータベースであり、柔軟性の高いデータモデルにより絶えず変化する多様なデータソースから生成される情報を格納、管理、検索可能です。また、リレーショナルデータベースの持つデータのレジリエンスと一貫性も保持しています。これに加えて、セマンティックやスマートマスタリングなどの重要な機能や高度な機能により、金融機関はデータの取り込みやアクセスを加速できます。これにより、ビジネスインサイト、レポート作成、ソリューションのイノベーションを実現できます。



金融サービス向けMarkLogicデータハブプラットフォームソリューション

金融サービス全体にわたるMarkLogicデータハブの導入

MarkLogic は、金融サービス業界の全体にわたり多数の導入実績があり、次のようなさまざまなユースケースに取り組んでいます。

- 取引後処理
- KYC ワークフローの自動化
- 規制レポート作成およびコンプライアンス順守の業務化
- 投資のリサーチと管理
- 消費者金融サービスのカスタマー 360
- 金融犯罪対策

MarkLogic データハブは、現在、投資銀行、商業銀行、インターディーラーブローカー、情報プロバイダー、フィンテック企業に導入されており、その導入事例や MarkLogic データハブを利用する顧客は日々増加しています。

まとめ

ますます複雑になる金融サービス市場においても、MarkLogic のデータハブプラットフォームがあれば、変化するビジネスニーズと規制の複雑な問題に対応し、顧客体験を向上できます。分断されたデータの統合に世界で最も適したデータベースである MarkLogic のデータベースプラットフォームは、統合されたデータの全体像（360°ビュー）を、リレーショナルデータベースの 1/10 の時間かつ低コストで金融サービスのお客さまにお届けします。

世界中の大手金融機関が MarkLogic を信頼する理由と、私たちのデータハブプラットフォームが御社のデータ管理を強化し、業績を高める仕組みについて、<https://jp.marklogic.com/> をぜひご確認ください。

© 2021 MARKLOGIC CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED. このテクノロジーは、米国特許番号 7,127,469B2、米国特許番号 7,171,404B2、米国特許番号 7,756,858 B2、米国特許番号 7,962,474 B2 で保護されています。MarkLogic は、米国およびその他の国における MarkLogic Corporation の商標または登録商標です。本書に記載されているその他の商標は、各企業の所有物です。

マークロジック株式会社 MARKLOGIC K.K.

150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-5-8 神宮前タワービルディング 13F
03 4540 0337 | jp.marklogic.com | MarkLogic-JP@marklogic.com